

# 専門高校教科書「森林経営」に見る森林・林業教育の現状と課題 —森林計画を中心に—

○井上真理子（森林総研多摩）・宮下理人（長野県木曾青峰高校）・大石康彦（森林総研多摩）

## はじめに

高等学校の森林・林業に関する専門学科では、これまで関連分野への技術者を養成してきたが、近年の教育改革の中で、そのあり方が問われている。また林野行政は、森林計画制度の大幅な変更など、近年、大きく変化している。そこで本研究では、森林計画に関する項目を中心に、専門教育の内容を教科書の内容を分析し、筆者らが教科書の編纂に関わった経緯をふまえて、高等学校の森林・林業教育の課題について考察した。

## 方法

教科書編纂の基礎となる学習指導要領をもとに、森林・林業に関する科目と、「森林経営」に関わる科目の変遷を概観した。次に、「森林経営」に関わる教科書の内容の変遷と、森林計画に関わる内容の変化について、学習指導要領の1989年版、1999年版と2009年版を中心に分析した。以上の結果と、筆者らが教科書の編纂に関わった経緯をふまえて、高等学校の森林・林業教育の課題について考察した。

## 結果と考察

戦後の森林・林業関連科目は、1947年版で「林業経済」「森林生産」「森林土木」「林産加工」「林業一般」の5科目、1970年版で10科目と最大になり、続く1978年版で4科目、1999年版から3科目となった。1999年版は、専門教育の位置づけが大きく変わった改訂であり(1)、教科書が大幅に書きかわった。科目は、2013年から「森林科学」「森林経営」「林産物利用」の3科目である。次に「森林経営」に関する科目を見ると、1970年版で「測樹」「林業経営」の2科目から、1978・1989年版で「林業経営」となり、1999・2009年版では「森林経営」になった。

「森林経営」の教育内容をみると、教科書の目次は6～7章で構成されており、2009年版では、1. 森林と森林経営、2. 森林の機能、3. 森林の測定と評価、4. 森林経営の計画と管理、5. 木材の流通、6. 森林経営と森林政策である。森林計画に関する内容(4章)は、計画と管理が別の章であったのが統合されるなど、大きく変化した項目である。ただし内容で見ると、1989年版で、林業経営計画の基礎と森林施業計画の編成について30頁あったが、1999年版(4. 森林経営の計画)では、森林施業計画については6頁であり、計画に関わる記載が減少していた。

森林・林業科目の教科書は、文部科学省が直接編纂し、著作には大学教授1名と高校教諭数名が関わっている。制度が大幅に変わった森林計画制度など、最新の情勢を教科書に盛り込むには、業界からの支援やバックアップが求められ、森林・林業教育の専門性を維持するには、教科書に代わる教育支援、教員への支援体制が必要であると考えられる。

## 引用文献

- (1) 井上真理子「森林教育の軌跡」『森林科学』Vol. 49, 2007, 28～32頁

(連絡先：井上 真理子 imariko@ffpri.affrc.go.jp)